

## 一戸町総合計画審議会について

総合計画の作成や見直し、進展状況の評価は『一戸町総合計画審議会』（以下「審議会」とします。）で審議された内容が町長に提言されます。

審議会のメンバーは町議会の議員、学識経験者や公共的団体の役職員などから選ばれています。今回の評価と実績は今年8月に行われた審議会で審議されました。審議会における主な意見は以下のとおりです。

### 【審議会での主な意見】

- ・一戸高校の生徒と連携して地域課題の解決に挑戦してほしい。
- ・ICTを活用して町内の小学校と、横浜市の小学校の交流に取り組んでほしい。
- ・若者向け住宅の整備を進めてはどうか。
- ・オリンピック・パラリンピックに限らずパラグアイとの交流を進めてほしい。
- ・(株)夢ファームの取組は素晴らしいが、町外の研修生にとっては農地の確保が課題となっている。農林課や農業委員会と連携して支援してほしい。
- ・伐採後の植林について、小規模山林所有者は特に放置している傾向が多い。取組が進むように支援してほしい。
- ・従来型のイベントのように、『来場者数が増えれば成功』としていいのか疑問を感じる。商店街の売上げにつながるようなイベントにシフトしていくべきではないか。
- ・道の駅の運営や集客には、ノウハウを持った民間企業の協力が有効ではないか。
- ・町の産業の中でも大きな割合を占める介護業界は、ICT技術の利活用が遅れている。推進について計画への記載を検討してほしい。
- ・広報の充実について、紙媒体だけでなく電子媒体で欲しいケースもある。
- ・インフラの整備は財源が多くかかるが、長期的なビジョンのもと住民への説明は進んでいるのか。
- ・町には素晴らしい資源がたくさんあるが、他の自治体にもあるものでは人に来てもらえない。よりマニアックな取組をして世界中の興味のある人が来なくなる取組をしてはどうか。
- ・今後はSDGsの視点が必須となる。『誰一人として取り残さない』ために、財源や人材等資源を縦割りにならないよう配分してほしい。今までの取組を延長していくのではなく、理想の将来を共有し取組を進めてほしい。

このたび令和元年度の総合計画実施状況に対する評価を実施しました。今回の総合計画は人口減少や少子高齢化が進むことが想定される中で、町のおおむね30年後の姿を見据え、持続可能な地域社会を形成していくため平成30年度に8年間の計画として策定したものです。町にある資源を最大限に活用しヒトやモノの流れを創り、循環型の社会を形成していくことをこの計画の根幹としています。

この計画は役場が達成すべき目標を定めたものではありません。将来の一戸町のために、おのおのがそれぞれの立場で行動するための計画です。そのため毎年振り返り修正を加え、実行していくことが必要です。計画の実行に当たっては、町民の皆さんや企業・団体の方々と、共に行動することが重要だと考えます。

今日においては長年の活動が実り、御所野遺跡を含む『北海道・北東北の縄文遺跡群』の世界文化遺産登録

録が実現しようとしています。また町内では多様な再生可能エネルギーが生産され、都市部からその潜在供給能力に注目が集まっています。その中で今まさに横浜市との取り組みでは、再生可能エネルギーの取組から、北岩手循環共生圏の枠組みを通してのヒトやモノの交流まで進もうとしています。

さらには町内各地にて、さまざまな『地域づくり』活動が行われています。地域の資源やその活用についてよく知っているのはそこに住んでいる住民の方です。将来の町のために知恵を出し合い、最高の資源である『地域の力』を引き出し、ともに取り組んでいきましょう。

一戸町長 田中辰也



## 一戸町総合計画 基本計画

# 令和元年度の実績と評価 ～概要版～

一戸町のまちづくりにおける最上位計画である『一戸町総合計画』。令和元年度は第6次計画の初年度でした。このお知らせでは計画の達成に向けた1年間の取り組み実績と評価、今後の取組について概要をお知らせします。※より詳細な内容は、町のホームページをご覧ください。まちづくり課までお問い合わせください。

一戸町 総合計画

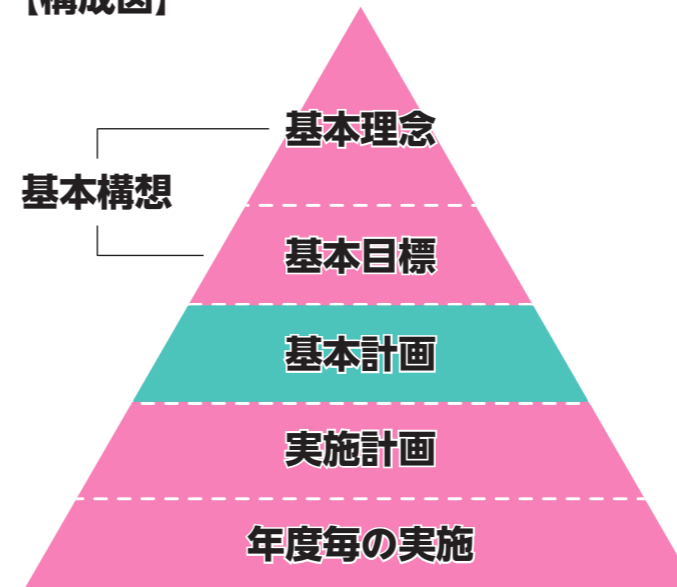


まちづくり課 ☎ 33-2111 内線 213

## 一戸町総合計画とは

第6次一戸町総合計画は、およそ30年後に実現したい町の姿（基本理念）を実現するため、下記の構成により計画・実施されます。このお知らせの内容は、主にピラミッドの真ん中『基本計画』の評価と実績です。

### 【構成図】



### 【基本理念】

#### 基本理念① みんなが生き生きと繋がって賑わいをつくり出しているまち

人が集まり、笑顔にあふれ、豊かな人間性の繋がりにより、活気にあふれたまちになっています。

#### 基本理念② みんなが自然や文化がもつ魅力を引き出しているまち

大地、森林からの豊富な恵みと、縄文から繋がる技術のほか多様な文化から、魅力を引き出し次々に引き継いでいるまちになっています。

#### 基本理念③ みんなが安心でき、これからも暮らし続けたいと思うまち

やりがいのある仕事や、全ての町民に行きわたる福祉などにより、安心して生活することができ、これからも暮らし続けたいまちになっています。

## 令和元年度の取り組みの全体評価

町が長年続けてきた取組が成果となって現れました。また、今後大きな成果が期待される施策の進展もありました。

- ・当町の御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、世界文化遺産の国内推薦候補に選定され、ユネスコへ推薦書が提出されました。
- ・県北8市町村とともに「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を行い、同市町村の枠組みで「北岩手循環共生圏」を発足し、横浜市との連携が強くなりました。
- ・道の駅の建設計画について、設置予定地の測量調査及び地権者との折衝を実施しました。

地域活動の活性化や産業の振興などについては遅れが生じました。また、令和2年に入ってから、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地区懇談会などの各種事業が中止になるなど多方面に影響が出ました。

### 第1章 将来を担う人材を育むまちづくり

学校の内外で協力しあう学習支援やキャリア教育の充実、生涯学習やスポーツ少年団などの活動を通じた豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成などに取り組み、将来を担う人材を育むまちづくりを進めます。

#### 評価：おおむね順調



- 生涯学習社会の構築やスポーツの推進に向けて、町民ニーズを汲んだセミナーやスポーツ大会等の実施ができました。
- 学校・家庭・地域の連携推進に向けた、学校運営協議会の設立準備を整えることができました。
- 一戸高校に対する支援は、従来の補助のほか、学校の活動を地域の中で展開することにより、新しい可能性が出てきました。
- 青少年の健全育成については、青少年団体やボランティア活動のリーダーを担う人材の育成が十分に進みませんでした。今後は、リーダー研修会への参加要請等を積極的に行います。

### 第3章 産業の振興と仕事の創出を図るまちづくり

農林畜産業、商工業や観光業等の各分野で、後継者の育成、商品の磨き上げや販路拡大などに取り組み、産業の振興と仕事を創出するまちづくりを進めます。

#### 評価：やや遅れ



- 農業振興に向けて、機械導入や基盤整備等の補助事業が順調に進みました。
- 農業担い手の確保については、一戸夢ファームの新規入校生を確保することができませんでした。今後は、短期研修を含めた研修生の確保に努めます。
- 観光業の集客や、横浜市のアンテナショップの売上は年度終盤まで順調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けました。今後は、状況に応じて適切な支援を行っていくとともに、状況を見極めながら活動を再開できるようにします。

### 第5章 元気で健やかに暮らせるまちづくり

医療の確保、社会福祉や子育て支援の充実、地域での健康活動の向上、個々の健康管理の徹底などに取り組み、元気で健やかに暮らせるまちづくりを進めます。

#### 評価：おおむね順調



- 医療の確保については、県立一戸病院の医療体制充実に向けた要望、公設民営クリニックや診療所の設備の整備、医学生への奨学金貸付などを実施しました。また、検診の無料化や、夜間・休日の検診実施などを継続実施しました。
- 社会福祉の充実については、地域福祉関係では社会福祉協議会への継続支援、啓発活動や担い手育成の実施、高齢者福祉関係では地域の生活支援サービス体制構築、在宅医療推進会議の開催、障がい者福祉関係では関連機関と連携し、サービス周知や就労支援を実施しました。
- 子育て支援の充実については、保育所・児童館・学童クラブの運営委託と、職員の正職員化に取り組みました。

### 第2章 人が集まり地域が活力にあふれるまちづくり

移住・定住や地域資源を活用した交流の拡大、自治会等の行事や地域活動の活性化などに取り組み、人が集まり地域が活力にあふれるまちづくりを進めます。

#### 評価：やや遅れ



- 移住・定住や交流人口の拡大について、主管する部署を決め各分野にまたがる取組を調整し、県や国の補助金を有効に活用し進めました。
- 町内会などの自治会、コミュニティ団体や、国際交流団体等地域づくり活動を担う各団体へ補助による支援を行いました。
- 共生社会の推進に向けて、男女共同参画サポーター養成講座の受講補助などにより人材育成を進めました。
- 町と地域の情報共有を進められず、地域の活性化計画（地域活動プラン）の作成支援を実施できませんでした。今後は、地域懇談会の実施や、広報・広聴の強化により町と地域の情報共有を進め、地域活動プラン策定の支援につなげます。

### 第4章 歴史や文化を活かすまちづくり

御所野遺跡や旧朴館家住宅等の有形文化財や神楽等の無形文化財の保存、伝統工芸の継承などに取り組み、まちの魅力として歴史や文化を活かすまちづくりを進めます。

#### 評価：やや遅れ



- 御所野遺跡の保存については、世界文化遺産登録に向けたユネスコ世界遺産委員会への推薦書が提出され、本登録へ着実に近づきました。
- 有形文化財の保存については、旧朴館住宅の保存に向けて地域と連携した取組が始まりました。
- 無形文化財の保存については、「女鹿神楽」を新たに無形民俗文化財に指定し、活動が継続できるよう支援しました。
- 伝統工芸の継承については、鳥越の竹細工の原材料であるスズ竹が、枯れ死により確保が困難となっています。今後は、原因解明と対応策について専門家と協議を進めます。

### 第6章 生活しやすい環境が充実するまちづくり

道路、情報通信基盤、上下水道等のハード面の整備、ごみ処理、交通、消防防災体制等のソフト面の整備に取り組み、生活しやすい環境が充実するまちづくりを進めます。

#### 評価：おおむね順調



- ハード面は、町道改良工事・都市計画道路用地買収・橋梁改修・子育て支援関連住宅整備・水道管耐震化・一戸浄水場設備更新などが順調に進んだ一方、町道舗装改修事業は事業費の制約から遅れが生じました。
- ソフト面は、広報啓発活動や補助事業の継続によりごみの減量が順調に進み、消防防災体制の整備については、消防署や消防団の設備更新、消防団機能別団員制度の創設、ハザードマップの作製などを実施しました。
- そのほか、情報通信基盤整備について公衆無線 LAN 設備の開放と維持管理、公共交通の充実について鉄道利用通学者補助事業の対象拡大や、効率的な交通網の整備に向けたバス路線の廃止などを実施しました。